

Sun Java™ System Directory Proxy Server リリースノート

バージョン 5 2004Q2

Part No. 817-7021

このリリースノートには、Sun Java System Directory Proxy Server 5 2004Q2 のリリース時点で判明している重要な情報が含まれています。ここでは、新機能および拡張機能、既知の問題および制限、その他の技術情報などを記載します。

Directory Proxy Server 5 2004Q2 への更新を予定している場合、またはすでに Directory Proxy Server 5 2004Q2 を使用している場合は、このリリースノートをお読みください。

このリリースノートの最新バージョンは、次の Web サイトで参照できます。

<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>

Directory Proxy Server 5 2004Q2 に更新する前に、この Web サイトを参照してください。また、その後も定期的に Web サイトを参照して、最新のリリースノートや製品マニュアルを確認してください。

このリリースノートは、次の節で構成されています。

- [リリースノートの変更履歴](#)
- [Directory Proxy Server 5 2004Q2 の概要](#)
- [このリリースで修正されたバグ](#)
- [重要な情報](#)
- [既知の問題および制限](#)
- [再配布可能なファイル](#)
- [問題の報告とフィードバックの方法](#)
- [その他の情報](#)

このリリースノートで参照先として示しているサードパーティの URL で、追加情報や関連情報を得ることができます。

注 米国サンマイクロシステムズ社は、このリリースノートで示しているサードパーティの Web サイトを使用できるかどうかについては責任を負いません。また、これらの Web サイトまたはリソースで利用可能なコンテンツ、広告、製品、またはその他の資料を保証したり、これらに対して責任を負ったりすることはありません。さらに、これらの Web サイトまたはリソース上で、またはこれらを通して利用可能なコンテンツ、商品、またはサービスにより生じた、またはこれらを使用または信用したことに関連する実際の、または申し立てられた損害や損失に対しても責任を負いません。

リリースノートの変更履歴

表 1 変更履歴

日付	変更点
2003 年 6 月 13 日	本リリースノートの第 1 版
2004 年 3 月 26 日	Directory Proxy Server 5 2004Q2 のベータリリースの発行
2004 年 5 月 6 日	Directory Proxy Server 5 2004Q2 の商用リリースの発行

Directory Proxy Server 5 2004Q2 の概要

Directory Proxy Server コンソールの Directory Proxy Server 5 2004Q2 は、Directory Proxy Server 5.2 とも呼ばれます。Directory Proxy Server 5 2004Q2 は、Directory Proxy Server 5.2 の保守リリースです。

ここでは、次の内容について説明します。

- [このリリースの新機能](#)
- [ハードウェアおよびソフトウェアの要件](#)

このリリースの新機能

このバージョンの Directory Proxy Server には、次の新機能が含まれています。

- 長い暗号鍵のサポートが強化された

Directory Proxy Server で使用されるバージョンの NSS では、cert7 形式の証明書ではなく、cert8 形式の証明書が必要になります。NSPR および JSS コンポーネントは更新されています。

- Sun Java Enterprise System インストーラで、Directory Proxy Server のインストールを実行できる
- Linux RPM での配信方法をサポートする

ハードウェアおよびソフトウェアの要件

このリリースの Directory Proxy Server には、次のハードウェアおよびソフトウェアが必要です。

表 2 Solaris のハードウェアおよびソフトウェアの要件

コンポーネント	プラットフォームの要件
CPU	Java Enterprise System に必要なパッチを適用した Solaris 8 SPARC Platform Edition Solaris 9 SPARC Platform Edition
RAM	256M バイト
空きディスク領域	最小インストール用として約 300M バイトの空きディスク領域
パッチまたはサービスパック	http://sunsolve.sun.com を参照

表 3 Solaris x86 のハードウェアおよびソフトウェアの要件

コンポーネント	プラットフォームの要件
CPU	Solaris 9 x86 Platform Edition
RAM	256M バイト
空きディスク領域	最小インストール用として約 300M バイトの空きディスク領域
パッチまたはサービスパック	http://sunsolve.sun.com を参照

表 4 Linux のハードウェアおよびソフトウェアの要件

コンポーネント	プラットフォームの要件
CPU	RedHat Advanced Server 2.1 Update 2
RAM	256M バイト
空きディスク領域	最小インストール用として約 300M バイトの空きディスク領域
パッチまたはサービスパック	なし

このリリースで修正されたバグ

以下の表に、Directory Proxy Server 5.2 以降、Directory Proxy Server 5 2004Q2 で修正されたバグを示します。Directory Proxy Server 5.2 のリリースノートについては、<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja> を参照してください。

表 5 Directory Proxy Server 5.2 以降に Directory Proxy Server 5 2004Q2 で修正されたバグ

バグ番号	バグの概要
4554991	OnSSLEstablished イベントに対して「保存」ボタンが常に有効化されている
4555088	接続以外にも健全性検査を実行する必要がある
4789877	DPS の起動時に DS が起動されていない場合、誤ったメッセージが表示される
4870271	特定の状況において、DSP トポロジ設定でヘルプが表示されない
4874761	SSL が設定されていて、コマンド行でトークンが要求された場合に、デーモンが起動しない
4891322	リフェラルを伴う高負荷の場合に ldapfwd がコアを生成する
4892644	SSL リフェラルでクライアントがハングアップする
4894043	参照を破棄するように設定している場合に、検索リフェラルでプロキシに障害が発生する
4895804	誤入力により、Solaris ネイティブモードパッケージで依存関係をチェックできなくなる
4919517	DPS がコンポーネントライブラリを検出しない
4933448	参照したサーバーがダウンすると、Directory Proxy Server 5.2 パッチ 3 で障害が発生する
4934980	root 以外で設定の解除ができない (SolPkg)
4935314	ldap_modify の実行中に Directory Proxy Server に障害が発生する
4942940	root としてセットアップを実行しているときに、root 以外のユーザーを指定すると、5.2 のインストールに失敗する
4966944	Sun ONE Directory Proxy Server 5.2 では可能な場合には長さが短いフォームを使用する必要がある
4976424	グループの変更によってロードバランスに誤りが生じる
4984682	1 つのインスタンスを削除すると、CDS にあるすべてのインスタンスの SIE が登録解除される
4984800	属性タイプが空の場合に検索を実行できない
4990235	DPS 5.2: フィルタに NOT 演算子が含まれる場合に属性の名前を変更できない
4992270	グループ変更の操作時にサーバーロードのパラメータが参照されない

表 5 Directory Proxy Server 5.2 以降に Directory Proxy Server 5 2004Q2 で修正されたバグ (続き)

バグ番号	バグの概要
4994492	DPS インスタンスを削除すると、他のインスタンスの証明書が削除されることがある
4997218	quickstart.tcl エラーログに、多くの詳細情報が必要になる
5006308	RPM : セキュリティ保護された接続上での検索が中断される
5031413	設定インストーラのサブメニューからオンラインヘルプページにアクセスできない

重要な情報

この節には、製品の主要マニュアルには含まれていない最新の情報が含まれています。ここでは、次の内容について説明します。

- [インストール上の注意](#)
- [互換性の問題](#)
- [Directory Proxy Server 5 2004Q2 に関するマニュアルの更新](#)

インストール上の注意

ここでは、Directory Proxy Server 5 2004Q2 のインストール、またはこのバージョンへの移行に関する注意事項について説明します。

- Directory Proxy Server のどのバージョンも使用していない場合は、『Sun Java Enterprise System 2004Q2 インストールガイド』および『Sun Java Enterprise System 2004Q2 リリースノート』を使用して、Directory Proxy Server 5 2004Q2 をインストールします。
- Directory Access Router バージョン 5.0 または 5.0 SP1 を使用している場合は、『Sun Java Enterprise System 2004Q2 インストールガイド』の「Java Enterprise System 2003Q4 からのアップグレード」で推奨されている手順に従って、Directory Proxy Server 5 2004Q2 に更新します。
- Directory Proxy Server 5.2 を使用している場合は、Directory Proxy Server 5 2004Q2 ディストリビューションに同梱されている README ファイルに記載の情報をを使用して、Directory Proxy Server 5 2004Q2 に更新します。表 6 に示されているパッチを使用します。

パッチの要件

以下の表に、Directory Proxy Server 5.2 を Directory Proxy Server 5 2004Q2 に更新するときに必要なパッチを示します。

表 6 Directory Proxy Server 5.2 から Directory Proxy Server 5 2004Q2 への更新時に必要なパッチ

プラットフォーム	必要なパッチ
Solaris	116373-09
Solaris x86	116374-09

Linux プラットフォーム上の Directory Proxy Server 5.2 から更新する場合は、Directory Proxy Server 5 2004Q2 を最初からインストールする必要があります。現在のインストールの設定を保存して、保存されている設定を新しいインストールに読み込むことができます。

SSL 用証明書のための Directory Proxy Server の設定

SSL を利用した通信を行なうための Directory Proxy Server 5 2004Q2 の設定方法については、『Directory Proxy Server 5 2004Q2 管理ガイド』を参照してください。

インストールのログファイルの検索

インストール中に生成されるログファイルについては、以下の表を参照してください。

表 7 インストールのログファイルが保存される場所

プラットフォーム	ログ (管理者 /root)	ログ (管理者 /root)
Solaris	/var/sadm/install/logs	/var/tmp
Solaris x86	/var/sadm/install/logs	/var/tmp
Linux	/var/tmp	/var/tmp

互換性の問題

Sun Solaris プラットフォームの LDAP ユーティリティのマニュアルページには、Sun Java System 版の LDAP ユーティリティである `ldapsearch`、`ldapmodify`、`ldapdelete`、および `ldapadd` に関する情報は記載されていません。これらのユーティリティに関する説明は、『Sun Java System Directory Server Resource Kit Tools Reference』を参照してください。

Directory Proxy Server 5 2004Q2 に関するマニュアルの更新

Directory Proxy Server 5 2004Q2 は、Sun Java Enterprise System インストーラによってインストールされます。Directory Proxy Server 5 2004Q2 のインストール方法に関する情報は、<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja> にある Sun Java System のドキュメントに含まれています。Directory Proxy Server 5 2004Q2 専用のインストールガイドはありません。

Directory Proxy Server 5.2 を Directory Proxy Server 5 2004Q2 に移行する方法に関する情報は、Directory Proxy Server 5 2004Q2 ディストリビューションに同梱されている README ファイルに記載されています。

既知の問題および制限

ここでは、既知の問題について説明します。

Directory Proxy Server の起動後に、自動的にネットワーク上で待機しない (#4818122)

Directory Proxy Server は、コマンド行から起動した場合、自動的にネットワーク上で待機しません。SSL モードが有効な場合、SSL を起動するためにトークンおよびパスワードを入力する必要があります。トークン要求に成功すると、Directory Proxy Server はネットワークで待機します。

回避策

なし

以前使用した名前でオブジェクトの名前を変更できない (#4863003)

オブジェクトの名前は、以前に使用した名前に変更することはできません。たとえば、次のようにオブジェクトの名前を指定して変更することはできません。

- myname-1 という名前でオブジェクトを作成し、これを保存する
- このオブジェクトの名前を myname-2 に変更し、この名前で保存する
- このオブジェクトの名前を myname-1 に戻す

この制限は、設定名を含め、名前が付けられるオブジェクトのプロパティのすべてに適用されます。

回避策

オブジェクトの名前を変更するときは、必ず新しい名前を使用します。

Directory Proxy Server のコンソールでログプロパティのパネルを使用すると、設定が無効になることがある (#4864081)

Directory Proxy Server のコンソールのログプロパティのパネルを使用してログプロパティを変更すると、設定ディレクトリサーバーの設定が無効になる場合があります。

回避策

なし

複数の Directory Proxy Server インスタンスが登録されている場合、オンラインヘルプでエラーが発生することがある (#4869580)

オンラインヘルプを表示するために、Directory Proxy Server のコンソールは設定ディレクトリに登録されている Directory Proxy Server インスタンスにアクセスします。設定ディレクトリに複数の Directory Proxy Server インスタンスが登録されている場合、使用される Directory Proxy Server インスタンスを指定することはできません。

オンラインヘルプの要求に応答する Directory Proxy Server インスタンスが使用されない場合、その要求は失敗します。Directory Proxy Server のコンソールは、戻り値および返される例外がないことを認識しません。

回避策

なし

コンソールで設定の名前を変更すると、設定の重複が発生する (#4923242)

Directory Proxy Server のコンソールを使用して Directory Proxy Server の設定の名前を変更すると、重複する設定名が作成されます。

回避策

設定のクローンを作成するには、新しい設定を作成し、元の設定に含まれるすべての値を新しい設定にコピーします。

Directory Proxy Server のコンソールのフランス語版のタイトルに間違った文字が表示される (#4940286)

Directory Proxy Server のコンソールのフランス語版のタイトルに間違った文字が表示されます。

回避策

なし

各リフェラルに対してバインドまたはバインド解除が実行される (#4943985)

Directory Proxy Server は、バックエンド LDAP サーバーへの既存の接続を再利用する代わりに、各リフェラルに対してバインドまたはバインド解除を実行します。バックエンドサーバーが広域ネットワーク上に配置されている場合は、この問題によってパフォーマンスが低下します。

回避策

なし

バインド要求のリフェラルに従うことができない (#4951403)

Directory Proxy Server が他のサーバーに対するバインド要求を実行する場合、DN が返されます。ただし、Directory Proxy Server は、返された DN をサーバーへの接続に使用しません。代わりに、元の DN を使用します。このため、バインド要求は動作しません。

回避策

この機能は、バインド要求でのみ制限を受けます。この機能は、検索要求、変更要求、およびその他の要求では制限を受けません。

SSL が有効な場合に、コンソールからのリモートインスタンスの起動に失敗する (#4961059)

Directory Proxy Server のリモートインスタンスで SSL が有効な場合、コンソールを使用してインスタンスを起動または再起動することはできません。PIN ファイルが存在しないことを示すメッセージがコンソールに表示されます。

回避策

サーバー側と同じパスを使用して、コンソール側に PIN ファイルをインストールします。

Directory Proxy Server より先に管理サーバーをバックアウトすると、バックアウトに失敗する (#5015762)

Directory Proxy Server 5 2004Q2 より先に管理サーバー 5 2004Q2 をバックアウトすると、バックアウトに失敗します。

回避策

Directory Proxy Server 5 2004Q2 をバックアウトしてから 管理サーバー 5 2004Q2 をバックアウトします。Directory Proxy Server の更新およびバックアウトの詳細については、『Sun Java Enterprise System 2004Q2 インストールガイド』を参照してください。

サーバーの root ディレクトリのユーティリティスクリプトのみを使用する必要がある (#5033742)

dpsconfig2ldif、dpsldif2config、および migratefromidar50 の各ユーティリティスクリプトは、サーバーの root ディレクトリ以外のディレクトリに複数のバージョンが存在することがあります。ただし、このようなバージョンのユーティリティスクリプトは、不適切な場合があります。

回避策

このディレクトリのユーティリティスクリプト、つまり <serverroot>/bin/dps_utilities のみを使用します。

IDAR 5.0 または 5.0 SP1 から Directory Proxy Server 5 2004Q2 への移行に失敗する (#5037424)

Directory Access Router 5.0 または 5.0 SP1 から Directory Proxy Server 5 2004Q2 に移行するときに、migratefromidar50 スクリプトの実行に失敗します。この障害は、Directory Proxy Server 5 2004Q2 インスタンスの tailor.txt ファイル内でパスワードが暗号化されているために発生します。

回避策

- 1) Directory Proxy Server 5 2004Q2 インスタンスの tailor.txt ファイルで、暗号化されたパスワードを暗号化されていないパスワードに置換する
- 2) 移行スクリプトを実行する

新しいインスタンスに対してコンソールをはじめて起動するとエラーメッセージが表示される (#5041832)

新しいインスタンスに対して Directory Proxy Server のコンソールをはじめて起動すると、「証明書データベースを開けません」というエラーメッセージが表示されます。このエラーは、証明書データベースが作成されていないために発生します。

回避策

「了解」をクリックしてエラーウィンドウを閉じて、操作を続行します。そのインスタンス用のデフォルトの証明書データベースが作成され、この問題が同じインスタンスで発生することはありません。

Directory Proxy Server のコンソールを起動できない (#5041840)

インストール後に、設定ディレクトリサーバーよりも先に管理サーバーを起動すると、Directory Proxy Server が管理サーバーにアクセスできません。この場合、Directory Proxy Server のコンソールは正常に起動できません。

回避策

管理サーバーを起動する前に設定ディレクトリサーバーを起動します。

新しいインスタンスの作成時にコンソールがブロックされる (#5042362)

Directory Proxy Server の新しいインスタンスを作成するときに、コンソールがブロックされ、「このビューにデータを読み込む際にエラーが発生しました」というエラーメッセージが表示されます。

回避策

新しいインスタンスを作成するときに、コンソールを終了するか、コンソールを再起動します。

Directory Proxy Server のヘルプより先に管理サーバーのヘルプにアクセスすると、日本語版のオンラインヘルプで文字化けが発生する (#5042362)

日本語版のオンラインヘルプでは、Directory Proxy Server のヘルプよりも先に管理サーバーのヘルプを開くと、Directory Proxy Server のヘルプのメインページで文字化けが発生します。

回避策

管理サーバーのヘルプよりも先に Directory Proxy Server のヘルプを開きます。

再配布可能なファイル

Sun Java System Directory Proxy Server 5 2004Q2 には、ユーザーによる再配布が許可されているファイルは含まれていません。

問題の報告とフィードバックの方法

Sun Java System Directory Proxy Server で問題が発生した場合は、次のいずれかの方法で Sun カスタマサポートにご連絡ください。

- Sun Software Support Services
<http://www.sun.com/service/support/software/>
このサイトには、Knowledge Base、Online Support Center、ProductTracker へのリンクと、保守プログラムやサポート連絡先の電話番号へのリンクがあります。
- 保守契約先に電話連絡してください。

最善の問題解決のため、サポートに連絡する際には次の情報をご用意ください。

- 問題が発生した状況および操作への影響などの、問題の具体的説明
- マシン機種、OS バージョン、および製品のバージョン (問題に関係するパッチおよびその他のソフトウェアを含む)
- 問題を再現するための具体的な手順の説明
- エラーログまたはコアダンプ

Sun Java System Directory Proxy Server の話題が議論されている次のフォーラムを購読すると、有益な情報を得られます。

<http://swforum.sun.com>

コメントの送付先

Sun では、マニュアルの品質を向上するために、お客様からのコメントや提案をお待ちしております。Sun へのフィードバックを送信するには、次の Web サイトのフォームを使用してください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

該当するフィールドに、マニュアルの正式なタイトルと Part No. を入力してください。Part No. は、7桁または9桁の数字であり、マニュアルのタイトルページまたはドキュメントの先頭に記載されています。たとえば、このリリースノート Part No. は 817-7021 です。

その他の情報

次の Web サイトには、役立つ Sun Java System 情報があります。

- Sun Java System マニュアル
<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>
- Sun Java System プロフェッショナルサービス
<http://www.sun.com/service/sunps/sunone>
- Sun Java System ソフトウェア製品およびサービス
<http://www.sun.com/software>
- Sun Java System ソフトウェアサポートサービス
<http://www.sun.com/service/sunone/software>
- Sun Java System サポートおよび Knowledge Base
<http://www.sun.com/service/support/software>
- Sun サポートおよびトレーニングサービス
<http://training.sun.com>
- Sun Java System コンサルティングおよびプロフェッショナルサービス
<http://www.sun.com/service/sunps/sunone>
- Sun Java System 開発者向け情報
<http://sunonedev.sun.com>
- Sun 開発者サポートサービス
<http://www.sun.com/developers/support>
- Sun Java System ソフトウェアトレーニング
<http://www.sun.com/software/training>
- Sun ソフトウェア一覧
<http://www.sun.com/software>

Copyright © 2004 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

本書で説明する製品で使用されている技術に関連した知的所有権は、Sun Microsystems, Inc. に帰属します。特に、制限を受けることなく、この知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> の一覧に示される米国特許、および米国をはじめとする他の国々で取得された、または申請中の特許などが含まれています。

SUN PROPRIETARY/CONFIDENTIAL.

U.S. Government Rights - Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

ご使用はライセンス条項に従ってください。

本製品には、サードパーティが開発した技術が含まれている場合があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいて開発されている場合があります。

Sun、Sun Microsystems、Sun ロゴ、Java、および Solaris は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用されている、米国および他の国々における同社の商標または登録商標です。

その他の情報